自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地に開所して10ヶ月経ち、常に地域社会の一員として暮らしていることの認識を持ち理念の実践に努めている。理念をホーム内に掲げて管理者、職員共に日々確認し合っている。	地域密着型サービスの意義と役割について全職員で学んだ上で話し合い、「地域とのつながり、個性を重視した支援」などを織り込んだホームの理念を作り上げた。理念について職員間や会議等で話し合うことは特別になかったが、日々、職員一人ひとり、熱い思いを抱き、理念を意識しながら支援に取り組んでいる。	全職員が熱い想いで歩んできた一年目が間もなく過ぎようとしています。ホームとして掲げた理念に沿っての運営であったかどうか振り返る機会を持たれ、新たな気持ちで取り組まれることを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方と挨拶したり、公園で小さな子どもと交流もある。また、近所の方が犬の散歩の途中に寄って下さったり、近所の田んぼに仕事にこられた方にお茶を提供したりと日常的に交流している。	自治会費は法人が一括納入している。ホーム周辺に住む職員宅への回覧板を見て地域の情報を把握している。地域のボランテイアの会「菜の花会」の歌や紙芝居、アレンジフラワー教室やビューティーサロンなどの個々のボランティアも定期的に来訪し毎回和やかな時間を過ごしている。ホーム周辺で行き交う学生や子供たち、会社員の人たちとも積極的に挨拶を交わしており、地域住民とも日常的にふれあう機会が多い。開設来、顔見知りとなった方がホームまで足を運ぶ回数も徐々に増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催。地域と家族に呼びかけて多数参加した。開設後に地域の民生委員が大勢見学し、その場で沢山の質問を受けたり、相談にものっている。運営推進会議に提起したり、積極的にアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告などを通してサービスの実際を知ってもらい意見を頂いている。会議上の意見をスタッフ会議等で報告し話し合っている。	開設初年度の半年間で3回開催した。家族代表、区長、市介護保険課長、包括支援センター職員、ホーム関係者が集まり2ヶ月毎、会議を開催している。今年度の第一回会議では東日本震災の後ということもあり、災害に関する意見・情報交換が活発に行われている。事業所の災害に関する実情を報告し、参加者から意見や助言を多く頂きサービスの向上に活かしている。住民の力添えを頂きながら今後は地域の保育園や中学生などとの交流も深めたいと意欲的に臨んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員の中に、市の担当者と包括の担当者がおり、活動を知ってもらっている。市の窓口には電話で相談したり、包括には地域の利用者の事で相談にのってもらっている。	開設直後ということもあり、市担当部署とは電話や窓口に出向くなど積極的に連携を図っている。毎回、担当者等は親身になって問題解決に応じてくれ、協力関係が築かれている。市からはファックス等で必要な情報や資料が送られてきている。あんしん相談員(介護相談員)の訪問については市に申請をしており、来所日を心待ちにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、日中は開錠している。外出したい利用者には付き添うようにしており、安全面で配慮している。ケア会議などで拘束しないケアについては毎回話し合っており、意識を高めている。	全職員が拘束に関する内容を理解しており、日々、不適切な言葉掛けや行為を伴わないケアの実践に取り組んでいる。転倒骨折の入居者が安静を保たれなかった時に家族とも相談した上で一時的に柵を使用せざる得なかったが、経過を見ながら早期の解除にこぎつけている。経験の浅い職員は「禁止の対象となる具体的な行為」について、日常の仕事を通して学んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフが虐待に対する意識が強く、県社協主催の勉強会に参加し、その後スタッフ会議にて全体で勉強会をした。日々のケアの中で見落としがないかお互いに確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームネットワークでの学習会にて学ぶ機会があり、また利用者の中で成年後見人制度、任意後見人制度を利用している人もいて、後見人との話し合いの機会も度々ありその必要性を常に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に説明をし、疑問点をたずねて納得の上で契約の締結をした。また、家族や利用者から尋ねられたときはその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して家族の意見・要望を聞くようにしている。 利用者の要望や意見はお茶時や食事時など機会ある毎に日常会話の中からも聞き取るように心がけ、反映している。	面会簿用紙に必ず「意見要望用紙」も添えられて渡されるので家族等は何でも気軽に書き込み投函している。言葉を交わす時には家族等が安心し気軽に話せるようホーム側から日頃の様子を報告するなど雰囲気作りに努めている。頂いた意見、要望は検討し運営に反映させている。毎月発行のホーム便りには写真で行事の様子を伝え、また、個別に生活の様子を手紙や電話などで報告しながら家族とのかかわりを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議ではその都度職員からの意見を聞くようにしている。また機会ある毎に個々の職員から気づきや提案を聞いて反映させるように努めている。	毎日の引継ぎ時やカンファレンス、毎月のスタッフ会議、ケア会議の場で話し合いや連絡、確認等が行なわれている。参加できない職員は引継ぎノートや貼り出されたメモなどで情報を共有している。話し合いや会議等の場においても一つひとつ、問題や議題に対し活発に意見を出し合い、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に自己評価を実施し、その中で感じた事や要望などの記載もしてもらい、不満や不安のない働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には出来る限り職員一人ひとりの要望に応えて受講できるように支援し、又、県の「現任介護職員等研修支援事業」を利用して勤務に支障のないやり方も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会で2ヶ月に1度情報交換や研修会に参加し、質の向上に取り組んでいる。同ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ法人内の3ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑとも毎月の連絡会や機会あるごとに相互訪問して質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開所時一人一人と向き合う余裕がなかったが10ヶ月の間に機会あるごとに本人と向き合い、ゆっくり話をしたり同じ時間を過ごして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族との面談で何回か話し合い、不安や要望を聞き、本人と家族の思いの違いを知り、ケアプランの中にも家族の意向として取り入れ、又、面会時行事時にも話をするようにして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから本人、家族との面接、ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰとの話し合いから情報収集した。本人や家族の思いや状況を確認して必要な支援を見極めてサービスにつなげている。又、ｺｽﾓｽｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの3ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ、有料老人ホーム、老健とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で家族のように寄り沿って仲間でもいられるように心がけている。 職員も人生経験の豊富な利用者から沢山の知恵を教えてもらう機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活記録を送っていて、本人の様子を家族に知っていただくと共に事あるごとに家族には電話で様子を話したり、面会時も可能な限り本人の気持ちを代弁して家族に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦から本人のなじみの人や関係を知り、面会をお願いしたり、家族との外出時などに墓参りや近所の人との交流などをお願いしている。必要により職員も同行して出来る限りの支援をしている。	家族以外には友人や女学校時代の同級生の訪問などがあり毎回、途切れることのない昔話が続き、楽しく時間を過ごしている。馴染みの場所への外出はご家族の協力をいただきながら行なわれている。昔を思い出したり、懐かしんだりする入居者が多い。戸外への外出は年間計画に組込まれ、近隣市町村の公園や名所旧跡などへ積極的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来したり、フロア以外にも交流できる場所を設けている。 1，2Fの入居者同士の交流もホームの内外を問わず機会を多く作っており、又コミュニケーションの取りづらい利用者にも仲介に入って関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の相談にのったり、移動先の施設に面会に行くなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から本人の希望や意向の把握に努めている。直接本人と話をしたり、本人のつぶやきなどを聞き逃さず、生活暦や家族からの聞き取りも含めて本人本位に検討している。	一人ひとりの意向や思いについて職員は何時も関心を持ち、入居者に接しながら常に把握に努めている。意思表示が難しいときには生活歴や日々の暮らしなどの資料を基に職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から聞いた生活暦を参考に本人の回りの人たちの面会時など差し障りない程度に生活暦を聞くこともある。また、担当ケアマネから情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握しそれに合わせたケアをするようにしている。 本人の発する言葉や様子で気づいたことをケア記録やケア会議で共有してケアに生かしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中から本人のニーズを引き出し、家族や本人の意向もくみ取りながら、担当職員とユニットリーダーが中心になってモニタリング、カンファレンスを行い、ケアプランに反映している。	計画作成担当者が本人、家族の意向を基に受持ち担当職員と話し合いながら作成し会議で全職員に発表している。評価は1ヶ月毎、見直しは3ヶ月毎に行っている。状態に変化が見られる時には現状に即したものに作り変えている。家族には介護計画を説明し確認を頂いている。入居者への説明と確認についても検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や発言などをありのままケア記録に記入している。夜間の様子は申し送り簿と翌朝の申し送りの場で日勤者に徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により、外泊や外出の支援、又、孤立する利用者の配偶者への配慮などを包括とも相談しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括や区長、民生委員が参加することで関係が強化されている。地元に住んでいる職員の協力で地域の情報を知り、可能な限り参加して地域との関係作りに取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指示により専門外来の受診もあり、本人の様子を良く知る職員が同行し、専門医との関係も築いている。	本人、家族は入居後に通院等を考えて協力医療機関の医師を主治医に変更している。通院、往診、入院等に関しては協力医療機関との連携体制が構築されており適切な医療を受けられるよう支援している。訪問看護師も毎週訪問しており、入居者の健康管理と医療相談が24時間可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護による健康チェックの実施、利用者の体調不良時などは24時間電話で相談でき、指示をもらい必要により適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携でスムーズに入退院ができる関係ができており、病院関係者との情報交換にもつとめていて、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、「重度化の指針」を説明して同意を得ている。利用者の状況も機会あるごとに家族に説明し、事業所の力量も理解してもらった上で最大限のケアについて説明をしている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所ができる最大限の支援方法を本人、家族に説明している。状態の変化に応じ、家族や医師等とも相談しながら方針を共有し、取り組んでいる。入居者の高齢化も進んでおり、本人家族が最期を安心して過ごすことが出来るよう事業所は系列の施設や医療機関とも連携を密にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時、救命講習を消防署に依頼して職員全員が受講した。事務所には緊急時の連絡システムが掲示してあり、全員が周知しており、時々訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間、夜間想定の避難訓練を実施しており、地元消防団に参加してもらい、指導もしてもらった。併設の有料老人ホームとは共同訓練をし、緊急時の連携も確認しあっている。	災害を想定した訓練を実施し、いざという時に慌てずに避難誘導ができるよう努めている。スプリンクラーの設置、自衛消防組織の編成、全職員が消防用設備（通報の仕方、消火器の扱い方、自動火災報知機の復旧など）の扱い方を身に付けるなど入居者の安心安全の策が講じられている。普段から避難経路の確認や消防設備の自主点検も行なわれている。運営推進会議でも参加者等と災害に関する話合いを持ち、住民参加や備蓄についても今後の課題として上げている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同志でそれぞれの声がけの仕方や介助の仕方を見ていてもらい、気づいたことを指摘しあって適切なケアにつなげている。	人生の先輩として敬意を払い、プライドやプライバシーを損ねない声がけや対応が行なわれている。職員間では、日々、切磋琢磨しながらサービスの質の向上へむけての取り組みが行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声がけをするように心がけている。複数の選択肢を用意するなどなるべくわかりやすい表現をして自分で決める場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、散歩や畑仕事、手芸など（居室で過ごす時間）、希望を聞きながら、一人ひとりの体調に合わせて個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	市内の美容師がヘアカットするが、その際本人に好みを聞いてカットしている。また、毎日化粧をする方もいて、2ヶ月に1度ビューティーボランティアさんが来てお化粧や眉カット、顔そりもしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と一緒に作るように心がけておりそれぞれの出来る力を発揮してもらえるように役割分担している。おやきや餃子作りなど利用者中心のメニューも取り入れている。	入居者は出来る範囲で調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなどを職員と一緒に行っている。幾つもの小鉢には旬のお惣菜が盛られ食卓をにぎわしている。「この野菜はどなたが切ったのかな～」、「塩加減はバッチリ」などと入居者の労をねぎらいながら笑いのある、和やかな食事であった。入居者の嗜好調査も行なわれており、献立には好物がしばしば盛り込まれている。食形態は入居者の状態に応じながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士の立てたものを使っている。食材は旬のものを多く取り入れ、近所からの頂き物の野菜も多い。 一人ひとりの体調、体重管理をし、適した量を見極めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生の知識のある職員がおり、中心になって利用者一人ひとりの口腔内の状態を把握しており口腔ケアをしている。入歯は夜間預かり入歯洗浄剤で消毒している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使い、一人ひとりの排泄の様子をチェックしている。夏に向けてリハパンから布パンツに移行し、時間でトイレ誘導して個別に支援している。	一人ひとりの排泄パターンやサインを職員は把握しており個別支援に徹し、トイレでの排泄支援が行われている。失禁時の対応については細心の注意を払いながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排便が不規則だと体調も精神面も大きな影響があることを理解している。 毎日朝夕の運動、散歩、また、食物繊維の多い野菜を多く取り入れたメニューだったり、毎日乳製品は欠かさず食卓にのるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を指定して行っている。大型浴槽なので、仲の良い人同士ゆっくり入ってもらうように配慮している。車椅子の利用者もおり、二人掛りで浴槽に入ってもらうように関わっている。	入浴の効果や大切さを職員は認識しており入居者が安心しながら気分良く入浴できるよう取り組んでいる。入浴日には一人ひとりに声をかけて希望に合わせながら支援している。まれに入浴を拒む入居者もいるが職員の工夫で入浴できている。柚子湯、菖蒲湯、入浴剤なども入居者には喜ばれている。夏場にはシャワーもあるが週3回以上入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩やレクリエーションなどで過ごしてもらい、昼寝も休める人には休んでもらうが買い物や散歩をされる方もいる。夜はTVを見て過ごされ、寝たいときに休んでもらうが、寝れない時は温かい飲み物など提供したり側でゆっくり話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりの医療情報から内服薬の情報を理解している。 服薬もその人の様子により見守りか介助か見極めて支援し、症状の変化があったら申し送りで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵手紙教室が毎月あり、季節の花を農家の方の協力と指導でフラワーアレンジメント教室も開催している。また、おやきやうどんなど得意な利用者を中心に作る場面があり、料理・裁縫・ぬりえなど得意分野を生かして活躍してもらっており、家族やボランティアさんが支えてくれる。また、お茶時などの会話で外出の希望などがあれば出来る限り希望に沿うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて外にでる機会はなるべく多く取る様にしている。毎日の散歩や天気の良いときのテラスでの昼食やティータイム、夕涼みは喜ばれている。 外出は大好きなので車が手配できれば1,2階全員で出掛けることが多い。	日常的にはホーム周辺を皆で散歩し気分転換に努めている。近くの公園には地域の人達も出かけてきており積極的に挨拶を交わしている。ドライブにはお弁当を持参し、須坂市の人形博物館で沢山のお雛様をみて笑みをこぼし、森の杏や茶臼山の桜には気持ちも若返り記念写真にはVサインで納まっている。外出は皆が楽しみにしているので要望があれば積極的に出かけるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小遣いとしてお金を預かり出納簿で管理している。トラブル防止のため職員が管理しているが、買い物や外来受診の診療費など職員も同行して出来る人にはレジでの支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で電話を掛けたいときは取次ぎをしている。手紙は必要により代筆することもあり、本人の意欲につながるように積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは南向きに大きく開放されていて、明るく、冬は暖炉のモニュメントがあり温かそうな演出をしている。テーブルには季節の花があり、テラスや玄関前にも花が植えられていて季節感を出している。 外出や行事のときの写真を大きく写して飾っており、利用者に喜ばれている。	ワンフロアの食堂兼居間、広い廊下がある。朝は皆が顔を合わせ、朝食、健康チェック、新聞読みから一日が始動する。日中の多くは食堂のテーブルに集まり、ゲームやおしゃべり、手作業、食事の準備など好きなことをしながら職員と一緒に過ごしている。広い廊下にはゆったりと腰掛けられるソファーや椅子があり、気の合う人たちが皆から離れておしゃべりをしている。窓辺にはネットが張られ、真夏にはゴーヤと朝顔のグリーンカーテンで埋め尽くされる予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも利用者が一人で過ごせる場所があり、利用者同士がおしゃべりしているときはお茶を提供したりしている。フロアとテラスの出入りも自由にでき、植木の水くれやテラスに鳥が来てリンゴを啄ばむ姿が見え喜ばれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時馴染みの物等を持ってきてもらうことの説明をしている。居室に家族の写真を貼ったり配偶者の位牌や写真を置く人もいる。自分の部屋として落ち着く場所の工夫をしている。	居室の入口には顔写真と氏名が書かれた表札があり、ドアを開けるとホテルのシングル部屋の雰囲気があった。大きな収納庫があるので整理整頓が行き届いている。壁には家族写真や外出先での記念写真、自作の作品が飾られており、入居者はその写真や作品を眺めながら安心し過ごしている。居室の作りは同じであるが壁紙の模様や色、カーテンの色がそれぞれに違うので各居室の雰囲気はかなり違って感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前が貼ってあったり、トイレや浴室の案内もわかりやすく表示している。一人ひとりのわかることを見極めて必要に応じて物の配置や座席の位置を変えている。		